

登録コード	UAA11500	開講年度	2026				
授業題目	文化情報論・社会学総合演習				担当教員	佐藤 広英 他	
					副担当	木村 宏人・渡邊 綾	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・1時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UACリ・総人社・人間文化学, 2 5 UACリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				現代の情報社会・文化の趨勢について、社会心理学を中心に人文社会科学系の国内外の研究を精査し、大学院レベルの研究課題・計画を立てられるようになる。		
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				現代の情報社会・文化の趨勢を対象とした社会心理学を中心とする多様な学問領域の方法論を理解し、自身の研究課題・計画に適切に応用できるようになる。		
(2)授業の概要	授業では、現代の地域文化や社会情報系人文学に関する領域の問題意識をもとに、各自が設定した課題について文献・論文による情報収集や調査を行い、プレゼンテーションを行う。 参加者同士のディスカッションを通して、社会情報に関わる学際領域に対する問題意識の交換と、適切に議論を進める総合的な情報活用能力を養成することを重視する。学部生を議論に参加させることもある。						
(3)授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 社会情報に関する課題とは？ 第3回 「情報リテラシー、情報モラル」に関する情報収集・調査 第4回 「情報リテラシー、情報モラル」に関する発表 第5回 「情報リテラシー、情報モラル」に関するディスカッション 第6回 「超高齢社会とデジタルディバイド」に関する情報収集・調査 第7回 「超高齢社会とデジタルディバイド」に関する発表 第8回 「超高齢社会とデジタルディバイド」に関するディスカッション 第9回 「Society5.0, lot」に関する情報収集・調査 第10回 「Society5.0, lot」に関する発表 第11回 「Society5.0, lot」に関するディスカッション 第12回 「ウェブ上の宣伝広告、消費行動」に関する情報収集・調査 第13回 「ウェブ上の宣伝広告、消費行動」に関する発表 第14回 「ウェブ上の宣伝広告、消費行動」に関するディスカッション 第15回 まとめ 定期試験：行わない						
(4)成績評価の方法	授業への取り組み方（発表、ディスカッション）（100%）を基に、研究能力と情報活用能力を評価する。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	「卓越している」：進行状況にあわせて設定された研究プログラムを発展的に完遂し、その過程で十分な情報活用能力を示すことができる。 「かなり上にある」：進行状況にあわせて設定された研究プログラムを完遂し、その過程で十分な情報活用能力を示すことができる。 「やや上にある」：進行状況にあわせて設定された研究プログラムを完遂し、その過程で情報活用能力の向上が認められる。 「その水準にある」：進行状況にあわせて設定された研究プログラムを完遂し、成果をまとめることができる。						
(6)事前事後学習の内容	事前学習として、次回発表者のレジュメに目を通しておくこと。事後学習として、研究発表・ディスカッション時に分からなかった部分を自主的に調べ、研究の理解を深めること。						
(7)履修上の注意	連絡、指示などは信州大学e-LearningプラットフォームeALPSシステムを利用する。						
(8)質問、相談への対応	質問や相談はオフィスアワー（火曜12時30分～13時30分）に対応する。（連絡先：hirotsune[at]shinshu-u.ac.jp）						
【教科書】	指定しない。						
【参考書】	浦上昌則・脇田貴文(2008)『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書 他						